

性能評価型(事例12) 生物膜の肥厚化による水質改善事例

【槽内状況】



維持管理要領書より 7人槽 循環水量2.9~3.40/分 散気バルブ通常は「ひらく」の方に全開

事例番号	12		浄化槽メーカー	株式会社		
処理方式	性能評価型 窒素除去型		浄化槽型式	KJ		
法定検査日	平成 24 年 11 月 19 日		人槽	7人槽	使用人員	6人
測定項目	1次処理 1室	1次処理 2室	2次処理	処理水槽/沈殿槽	放流水	
スカム厚(cm)	1	0	—	1未満	透視度	17度
堆積汚泥厚(cm)	50	27	—	25	DO	2.8 mg/ℓ
透視度(度)	6	8	14		pH	7.3
法定検査からの 状況連絡・指示内容	槽内状況	1次処理1室、2室及び沈殿槽に堆積汚泥が多い。 1次処理機能低下 流出水透視度8度 設置ブロワ80ℓ/分(標準) 日平均汚水量 1.38m ³ /日 採水時間9:50 前回保守点検(9/21) 循環水の調整量 1.0ℓ/分 放流水透視度 38度 前々回保守点検(5/16) 循環水の調整量 3.0ℓ/分 放流水透視度 26度				
	対策	循環水量が3.5ℓ/分に増加していた為、前回の設定1.0ℓ/分に再調整する。 担体に生物膜の付着が多い為、ブロワ120ℓ/分を使用し生物膜を剥離する。				
保守点検からの措置 返信内容	11月21日	上記の通り調整する。 ブロワ120ℓ/分を使用し20分攪拌する。			透視度	16度
					DO	2.6 mg/ℓ
					pH	7.3
	11月28日	ブロワ120ℓ/分を使用し20分攪拌する。			透視度	21度
				DO	4.5 mg/ℓ	
				pH	7.2	
12月12日	透視度改善する。 ブロワ120ℓ/分を使用し20分攪拌する。 担体に付着した生物膜は剥離されてる。			透視度	34度	
				DO	5.3 mg/ℓ	
				pH	7.2	

【ポイント】



調整バルブの設定状況
循環バルブ開度 2 (灰色)
散気バルブ開度 全開(青色)

循環水量3.5ℓ/分。(LWL時に測定)
前回保守点検の設定水量1.0ℓ/分。
増加の原因は散気管の目詰まり。

担体の状況
生物膜が多く、剥離汚泥も多い。